



イベント・シンポジウム等実績報告書 配分事業費：250千円

メディアデザインウィーク2024

目的・趣旨 2012年度より毎年実施している実績に基づき、「メディアデザインに関する教育」「地域社会への成果発信、文化振興」等の特徴をテーマとし、デザイン学部ビジュアル・サウンド領域およびインタラクション領域の学生作品を展示した。

日時・場所 令和6年2月1日～令和6年2月7日
静岡文化芸術大学 ギャラリー・講堂

体制	(実施代表者)	デザイン学部	デザイン学科	准教授	百束 朋浩
		デザイン学部	デザイン学科	教授	的場 ひろし
		デザイン学部	デザイン学科	教授	長嶋 洋一
		デザイン学部	デザイン学科	教授	日比谷 憲彦
		デザイン学部	デザイン学科	教授	かわ こうせい

内容

ギャラリーを使って、2月1日～2月7日の期間にメディアデザインに関する学生作品の展示を行った。また、講堂を使って、2月5日に、シンセサイザーの専門家である松武秀樹氏の「シンセサイザーの歴史」と題するレクチャーとワークショップを実施した。



結果・成果

ギャラリーの作品展示では、3年次のデザイン学部必修科目の「総合演習Ⅰ」の作品を、（ビジュアル・サウンド、インタラクション、プロダクトの各領域より）約30名が展示を行った。インタラクション領域の作品と、ビジュアル・サウンド領域の一部の作品は、インタラクティブな特性を持つため、体験可能な動態展示の形式を取った。また、2年次選択科目の「インタラクティブプロダクト演習」と3年次選択科目の「領域専門演習」及び「映像デザイン演習Ⅱ」で制作された作品を、約25名が展示を行った。これらの作品展示に、約300名の学生、教職員、一般市民の方が来場し、鑑賞した。この展示会を通じて、デザイン学部におけるメディアデザインに関する教育内容を学内、学外に効果的に示すことができたと考えている。また、2月5日には、シンセサイザーの専門家の松武秀樹氏により、「MOOG3C」等の貴重な機材を使ったレクチャーと、ヤマハ株式会社より貸し出されたシンセサイザー「refaceCS」10台を活用した実践的なワークショップが行われ、学生、教職員、一般市民の方等、約100名が参加した。アンケート等から、多くの参加者が内容をよく理解し、満足していることが分かった。

